

I. 平成30年度の概要

1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、平成22年10月1日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。

この事業報告及び決算報告書は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの期間についての当法人の事業活動をとりまとめたものである。

- (2) 平成30年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公1）並びに研究業績褒賞事業（公2）に区分して実施した。

助成事業 （公1）	1. 研究助成 （1）研究助成 （2）PIセットアップ研究助成 2. 海外共同研究支援助成（本年度休止） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（本年度休止） 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公2）	1. 研究業績褒賞（第16回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（第35回高峰カンファレンス）

- (3) 本年度は、隔年度実施の助成事業の内、PIセットアップ研究助成を実施し、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成は休止とした。

2. その他について

- (1) 指定寄附金収入

第一三共株式会社より平成30年4月20日、指定寄附金として1億4千5百万円を受領した。

- (2) 主要事業活動報告

- ①平成30年4月20日の第17回選考委員会において、平成30年度PIセットアップ研究助成の候補者及び第16回高峰記念第一三共賞二次候補者の選考を行った。
- ②平成30年5月16日の第16回高峰記念第一三共賞審査委員会において、同賞の最終候補者を決定した。

- ③平成30年6月1日、第30回理事会において、平成29年度の事業報告及び決算報告書、平成30年度PIセットアップ研究助成者決定、第16回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う理事・監事候補者推薦、任期満了に伴う選考委員改選、顧問選任、特定資産取扱規程制定、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。
- ④平成30年6月20日、第12回評議員会において、平成29年度決算報告、任期満了に伴う評議員改選、任期満了に伴う理事・監事改選の各件について審議され、承認された。
- ⑤平成30年6月21日に内閣府に平成29年度事業報告等の提出を行った。
- ⑥平成30年6月29日、みなし決議による第31回理事会において、理事長及び常務理事を選定した。
- ⑦平成30年7月13日に内閣府に役員変更に伴う変更届の提出を行った。
- ⑧平成30年10月22日、第18回選考委員会において、平成30年度研究助成候補者及び平成31年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、平成31年度海外留学奨学研究助成については、平成30年11月19日に内定者（5名）の面接を実施した。理事会で承認された内定者5名の内1名が辞退した為、平成31年1月10日に追加の面接を行った。
- ⑨平成30年12月7日、第32回理事会において、平成30年度研究助成対象者決定、2019年度海外留学奨学研究助成対象者決定、2019年度事業推薦・応募要領、助成（褒賞）候補者推薦依頼先の各件について審議され、承認された。
- ⑩平成31年2月8日、第33回理事会において、2019年度事業計画・収支予算並びに資金調達及び設備投資の見込みについて審議され、承認された。
- ⑪平成31年2月8日に第16回高峰記念第一三共賞の贈呈式を開催した。
- ⑫平成31年2月22日に内閣府に2019年度事業計画等を提出した。
- ⑬平成31年3月1日に第35回高峰カンファレンスを開催した。

(3) 人事関係

- ①平成31年3月31日現在の関係者の人員数について、役員は、任期満了に伴う改選が行われ、理事16名（前年比1名減）、監事2名。評議員は、任期満了に伴う改選が行われ、9名。選考委員は、任期満了に伴う改選が行われ、20名。研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）は6名。顧問は8名（前年比1名増）、職員は2名。
- ②理事長について、中山讓治理事長が退任し、みなし決議による第31回理事会（平成30年6月29日）において、眞鍋淳理事が新たに選定され、7月1日付で就任した。同時に、常務理事について、金子次男理事が選定され、重任した。

- ③理事について任期満了に伴う改選が行われ、永井良三理事、中山讓治理事が退任し、新たに選任された小池和彦理事を含む16名が、6月20日付で就任した。
- ④監事について任期満了に伴う改選が行われ、牧野光宏監事が退任し、新たに選任された杉山正治監事を含む2名が6月20日付で就任した。
- ⑤評議員について任期満了に伴う改選が行われ、森謙治評議員、矢崎義雄評議員が退任し、新たに選任された柴崎正勝評議員、永井良三評議員を含む9名が、6月20日付で就任した。
- ⑥選考委員について任期満了に伴う改選が行われ、小池和彦選考委員、高橋雅英選考委員が退任し、新たに選任された2名を含む20名が、6月1日付で就任した。
- ⑦顧問について、評議員を退任した矢崎義雄先生が6月1日付で顧問に就任した。
- ⑧職員について、矢本敬氏が平成30年10月1日付で第一三共株式会社から出向により当法人に着任し、平成31年2月28日に出向元に帰任した。

(4) その他

第32回理事会（平成30年12月7日）において、2019年度より日付の表記を和暦（元号）から西暦に切替えることが報告された。

Ⅱ. 平成30年度事業報告

1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条 (1))	55,000千円	平成29年度 @100万円×30件 平成30年度 @100万円×25件
	(2) PIセットアップ研究助成 (定款第4条 (1))	18,000千円	@300万円×6件
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条 (2))	-千円	@50万円/件 (本年度休止)
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条 (3))	-千円	@50万円/件 (本年度休止)
	4. 海外留学奨学助成 (定款第4条 (4))	27,000千円	平成29年度 @50万円×6回×5件 平成30年度 @50万円×6回×4件
	その他助成事業費	27,558千円	
	助成事業計	127,558千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条 (5))	11,055千円	第16回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催 (定款第4条 (5))	6,066千円	第35回高峰カンファレンス
	その他研究業績褒賞事業費	10,610千円	
	研究業績褒賞事業計	27,731千円	
合計		155,289千円	

2. 助成事業 (公1)

2.1 研究助成 (定款第4条 (1))

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

(2) プログラム：研究助成はふたつのプログラムよりなる。

①研究助成

②PIセットアップ研究助成

(3) 募集対象

①研究助成

日本国内在住の生命科学分野を専攻し、優秀、かつ最先端の研究をする50歳未満(平成30年4月1日現在)の研究者。

②PIセットアップ研究助成

- (a) 研究責任者（PI）として、実施前々年度、実施前年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、或いは実施年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。
- (b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可。
- (c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可。
- (d) 45歳以下（平成30年4月1日現在）の研究者。

(4) 募集規模

①研究助成

- (a) 1件当たり200万円（助成期間は、平成30年度以降2年間）
- (b) 採択数：新規25件以内（継続分も含め、原則、55件以内）

②PIセットアップ研究助成

- (a) 1件当たり300万円（助成期間は、平成30年度以降3年間）
- (b) 採択数

新規6件以内。通常5件以内だが、平成30年度海外留学奨学研究助成に1名欠員が出た為、その未使用予算600万円は平成30年度及び2020年度PIセットアップ研究助成の採択枠増に当て、各々1名増の6名とすることが第29回理事会にて承認された（平成30年2月2日）。

(5) 募集方法

当法人ホームページにて、応募要領を掲載し、理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長並びに当法人の評議員・理事・顧問、過去の褒賞受賞者（高峰記念第一三共賞）宛にポスター等送付し募集する。

(6) 応募方法

- ①理事会により選定した全国の生命科学分野の大学大学院研究科長等、研究機関長等並びに当法人の評議員・理事・顧問、過去の褒賞受賞者（高峰記念第一三共賞）を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付する。
- ②応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼する。
- ③推薦者は応募者の中から、応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定する。
- ④応募者は、推薦書を取得後、当法人ホームページ掲載の助成Web登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信。当法人事務局より確認連絡及び受付番号を取得後、当該申請書一式をコピーし、応募受付締切日までに、当法人事務局宛に送付する。
- ⑤応募受付期間
 - (a) 研究助成：平成30年4月1日～5月31日

(b) PIセットアップ研究助成：平成30年1月15日～2月28日

⑥応募数

(a) 研究助成：193件

(b) PIセットアップ研究助成：80件

(7) 選考方法

①研究助成

第18回選考委員会による選考結果をもとに、第32回理事会にて25名の助成対象者を決定した。

(附属明細書 資料-1：平成30年度当該助成採択者参照)

②PIセットアップ研究助成

第17回選考委員会による選考結果をもとに、第30回理事会にて6名の助成対象者を決定した。

(附属明細書 資料-2：平成30年度当該助成採択者参照)

(8) 助成金の交付

①交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。

②交付時期

(a) 研究助成：2度に分けて交付する（100万円/年度）。

初年度：平成31年1月10日～2月20日に交付完了。

次年度：2019年10月頃予定。

(b) PIセットアップ研究助成：一括交付する（300万円）。

平成30年6月20日～8月10日に交付完了。

(9) 研究成果の公表

①助成者は、助成期間終了後、論文を当法人に提出する。

②助成者は、助成期間終了後、収支決算報告書を当法人に提出する。

③助成者の研究成果論文を基に、研究報告集を作成し、当法人関係者、助成者並びに大学等研究機関の図書館に寄贈する。尚、本年度は、研究助成、海外留学奨学、研究助成の助成者の成果論文について、当該報告集Vol.34として、平成30年10月31日に発刊し、291箇所へ寄贈した。

④助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページに掲載した。

2.2 海外共同研究支援助成（定款第4条（2））（本年度休止）

(1) 概要：海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

(2) 募集対象

①海外の学者との共同研究を行っている、日本国内在住の生命科学分野を専攻する研究者で、海外の研究者との共同研究を目的とした、海外渡航或いは海外の研究

者を招聘する者。

②助成対象期間：実施年7月1日から同翌々年6月30日に実施するもの。

③実施年度4月1日現在で50歳未満の研究者。

(3) 募集規模

①1件当たり50万円

②採択数：研究会・シンポジウム開催助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は、「研究助成」と同一

②応募受付期間：実施年1月15日～2月末日

(6) 選考方法

選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成対象者を決定する。

(7) 成果：実施終了後、実施報告書並びに収支決算報告書を入手する。

2.3 研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条（3））（本年度休止）

(1) 概要：萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。

(2) 募集対象

①生命科学分野に関する国際シンポジウムの中で、過去に海外で開催され、助成対象期間に日本にて開催される国際シンポジウムの開催助成。

②当該研究会・シンポジウムの規模は、参加人員：国内・海外合わせて500名以内程度で、他の団体より、大型の寄付を受けていないもの。

③助成対象期間：実施年7月1日から同翌々年6月30日に実施するもの。

(3) 募集規模

①1件当たり50万円以内

②採択数：海外共同研究支援助成と併せて10件以内

(4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

(5) 応募方法

①応募方法は、「研究助成」と同一。但し、推薦書は不要。

②応募受付期間：実施年1月15日～2月末日

(6) 選考方法

選考委員会による選考結果をもとに、理事会にて助成対象者を決定する。

(7) 成果：実施終了後、実施報告書等並びに収支決算報告書を入手する。

2.4 平成31年度海外留学奨学研究助成（定款第4条（4））

(1) 概要

海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。

(2) 募集対象

- ①原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下である者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下（平成30年4月1日現在）である者。
- ②海外の大学等研究機関において、1年間以上研究に従事することを計画している者。

(3) 募集規模

- ①1件当たり600万円（助成期間は、平成31年度以降2年間）
- ②採択数：5件以内

(4) 募集方法：募集方法は、「研究助成」と同一

(5) 応募方法

- ①応募方法は、「研究助成」と同一
- ②応募受付期間：平成30年4月1日～5月31日
- ③応募数：54件

(6) 選考方法

- ①第18回選考委員会による選考結果をもとに、内定候補者を決定。その後、内定候補者の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を内定候補者とした。
- ②平成30年11月19日に、選考委員長、他選考委員を面接官として、内定候補者の面接を実施し、最終内定者（5名）を決定した。
- ③第32回理事会にて5名の助成対象者を決定した。
- ④その後、1名の辞退者があったため、理事会にて承認された手続きに則り、1名を繰り上げて常務理事が面接を行い採択とした。

（附属明細書 資料-3：平成31年度当該助成採択者参照）

(7) 交付時期

平成31年4月より、原則年6回、2ヶ月毎に50万円を助成交付者の指定銀行口座へ入金する予定。

(8) 研究成果の公表：「研究助成」と同一

3. 研究業績褒賞事業（公2）

3.1 研究業績褒賞（定款第4条（5））

(1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行って

おり、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

(2) 褒賞名：第16回高峰記念第一三共賞

(3) 褒賞対象者

生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者。

(4) 推薦方法

①理事会において選定された全国の生命科学分野の大学院研究科長・研究所長等、研究機関長、又は、当法人の理事・評議員・顧問・選考委員、過去の褒賞受賞者に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。

②推薦期間：平成29年1月15日～2月28日

③推薦件数：本年度は、16名の推薦があった。

(5) 選考方法

①第一次選考：第17回選考委員会にて推薦候補者の選考を行い、4名の候補者が第二次候補者となった。

②第二次候補者に対し応募の意思の確認および応募申請の要請を行った。

(6) 最終選考

①第16回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

②第30回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由を当法人ホームページにて掲載するとともに、当法人出捐会社の第一三共株式会社のホームページに掲載した。

(7) 受賞者及び受賞研究テーマ

①受賞者：井ノ口馨博士（富山大学大学院医学薬学研究部教授）

②受賞研究テーマ：「記憶の連合とアイデンティティの物理化学的実体とメカニズムに関する研究」

(8) 褒賞の方法および贈呈

①賞状、賞牌並びに副賞（1,000万円）を贈呈した。

②贈呈式を実施し、表彰した（日時：平成31年2月8日、場所：東京會館）。出席者数：58名。

③贈呈式において、受賞者に講演を依頼。当日、受賞者の略歴・業績集を贈呈式参加者に配布した。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条（5））

(1) 概要

高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学術交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

(2) 名称：第35回高峰カンファレンス

(3) 開催の内容

①テーマ：「記憶研究の最前線」

②開催時期：平成31年3月1日

③開催場所：如水会館

④プログラム：受賞者による記念講演及び関連講演

(a) 記念講演

座長：中西重忠先生（京都大学名誉教授）

演者：井ノ口馨先生（富山大学大学院医学薬学研究部教授）

演題：記憶の連合とアイデンティティの物理化学的実体

(b) 講演

座長：井ノ口馨先生（富山大学大学院医学薬学研究部教授）

演者1：齊藤実先生

（公益財団法人東京都医学総合研究所学習記憶プロジェクトプロジェクトリーダー）

演題：連合強化シグナルとしての新規ドーパミン放出機構

演者2：深井朋樹先生

（国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター神経情報・脳計算研究チームチームリーダー/沖縄科学技術大学院大学客員教授）

演題：シナプス可塑性の多様性と経験の学習：事実から理論へ

演者3：村山正宜先生

（国立研究開発法人理化学研究所脳神経科学研究センター触知覚生理学研究チームチームリーダー）

演題：触知覚とその記憶の固定化メカニズム

⑤応募方法及び出席者数

募集期間（平成31年1月15日～2月15日）を設定し、高峰カンファレンステーマに関連する研究を行う大学大学院、研究機関等にポスター配布、当法人ホームページより参加者を募った。その結果、79名の参加者を得た。

⑥開催終了後の成果物：実施内容を当法人ホームページへ掲載した。

以 上

4. 附属明細書

[資料-1]

平成29年度研究助成採択者

30名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
浅原 弘嗣	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野	マイクロRNAによる関節炎の病態解明と治療への応用
阿部 隆之	神戸大学大学院医学研究科 感染制御学分野	B型肝炎ウイルスの慢性持続感染機構の解明と創薬に関する研究
池田 将	岐阜大学工学部 化学・生命工学科	核酸創薬を目指す化学ケージド型核酸の開発
石谷 太	群馬大学 生体調節研究所病態制御部門 個体統御システム分野	ポリグルタミン病におけるタンパク質リン酸化酵素NLKの機能解析と、それを基盤とした新規治療法の検討
石谷 隆一郎	東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻	創薬への応用を目指したリゾフォスファチジン酸受容体の機能構造解析
内山 真伸	東京大学大学院薬学系研究科	生命科学および医薬化学を切り拓く近赤外有機色素分子の創製と応用研究
大石 由美子	東京医科歯科大学難治疾患研究所 細胞分子医学分野	サルコペニアの要因となる加齢に伴う筋衛星細胞機能障害のグローバル解析
大東 いずみ	徳島大学先端酵素学研究所 免疫系発生学分野	ヒトbeta5t多型が免疫機能におよぼす影響
長船 健二	京都大学iPS細胞研究所 増殖分化機構研究部門	Fabry病患者由来iPS細胞の腎組織への分化系を用いた新規疾患モデルの開発
尾仲 宏康	東京大学大学院農学生命科学研究科	ペプチド抗生物質のアナログ体を試験管内で網羅的に創製する手法を用い、新規作用機構を有する抗生物質を開発する
桐野 洋平	横浜市立大学大学院医学研究科 幹細胞免疫制御内科学	自己炎症性疾患成人例における遺伝学的解析と機能的解析による病態解明
久場 敬司	秋田大学大学院医学系研究科 分子機能学・代謝機能学講座	心機能調節におけるRNA制御情報の解明と治療への応用
久原 篤	甲南大学大学院自然科学研究科	セルペンチン受容体を介した体内の温度応答の新規制御機構
久保田 義顕	慶應義塾大学医学部 坂口光洋記念機能形態学	臓器特異的血管パターンニングに基づく血管関連疾患の発症原理
指田 吾郎	熊本大学国際先端医学研究機構 指田研究室	がん幹細胞特異的クロマチン制御による造血器腫瘍発症の分子基盤解明
白石 航也	国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野	がん抑制遺伝子BRMのプロモーター領域に位置するinsertion / deletionバリエーションと肺がんリスクや予後との検討
新明 洋平	金沢大学医薬保健研究域医学系・ 脳神経医学研究分野	脳神経系の形成機構とその異常による疾患病態の解明

氏名	所属機関	研究課題名
杉浦 歩	神戸大学大学院医学研究科 生化学・分子生物学講座 シグナル統合分野病態シグナル学部門	神経老化におけるペルオキシソームダイナミクスの機能と作用機構
宗 孝 紀	東北大学大学院医学系研究科免疫学分野	アレルギー肺炎の新たな制御機構の解明
竹内 英之	名古屋大学大学院医学系研究科 機能分子制御学	O-結合型糖鎖の調節によるT-ALL型Notch1の恒常的活性化の選択的阻害
中川 勇人	東京大学医学部附属病院消化器内科	脂質代謝経路を基軸としたNASH・肥満関連肝癌に対する治療戦略：基礎的病態解明から前臨床試験まで
夏目 豊彰	国立遺伝学研究所分子遺伝研究系 分子細胞工学研究部門	「オーキシンドェグロン法」を用いてSMC複合体の多様な役割とその異常に起因する疾患の分子機構を探る
増富 健吉	国立がん研究センター がん幹細胞研究分野	TERTの持つ2種類の酵素活性の使い分けの分子機序の解明
松村 欣宏	東京大学先端科学技術研究センター 代謝医学分野	糖脂質代謝を制御する新規エピゲノム機構の解明
宮内 浩典	理化学研究所 統合生命医科学研究センター	抗インフルエンザウイルスIgA抗体を誘導する呼吸器微小環境の研究
宮崎 雄	大阪大学大学院 医学系研究科神経遺伝子学	RNA結合タンパク質を介したポリグルタミン病の病態解明と治療法開発
村上 和弘	金沢大学がん進展制御研究所	生体外培養技術を用いた胃がん幹細胞の理解と胃がんに対する真に効果的な治療法の探索
柳澤 琢史	大阪大学国際医工情報センター 臨床神経医工学寄附研究部門	慢性疼痛制御機構の解明
山下 高廣	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻 分子生体情報学分野	細胞内情報伝達系の低侵襲的人工制御ツールの開発
山田 健一	九州大学大学院薬学研究院	脂質酸化代謝産物をターゲットとした加齢黄斑変性疾患治療薬の探索

平成30年度研究助成採択者

25名（100万円/年、2年交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	研究課題名
明石 真	山口大学時間学研究所	逆進化的アプローチによる内在性メラトニンの機能解明
安部 力	岐阜大学大学院医学系研究科 神経統御学講座生理学分野	延髄C1ニューロンを介する新たな免疫制御機構の解明
安楽 泰孝	東京大学大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻 高井・カブラル研究室	ライソゾーム病治療を指向した革新的酵素補充療法の開発
池上 啓介	愛知医科大学医学部生理学講座	網膜における概日光応答リズムが概日時計により制御される仕組みの解明
伊勢 渉	大阪大学免疫学 フロンティア研究センター 分化制御研究室	骨髄に存在する長寿命プラズマ細胞の可視化とその分子生物学的特性の解析
太田 茜	甲南大学大学院自然科学研究科	単一感覚ニューロンにおける温度記憶の成立に関わる分子の同定
金谷 高史	理化学研究所生命医科学研究センター	腸管SIgAを分解する腸内共生細菌の同定とその病原性の評価
加納 純子	大阪大学蛋白質研究所・ 細胞核ネットワーク 研究室	ヒトの健康維持における染色体末端サブテロメア領域のクロマチン構造の役割
高阪 真路	国立がん研究センター研究所 細胞情報学分野	ハイスループットがん遺伝子機能解析法のがんゲノム個別化医療への応用
佐藤 信吾	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 細胞生理学分野	骨透明化技術を用いた骨の3次元構造解析と加齢・重力変化による骨量減少のメカニズムの解明
関根 俊一	理化学研究所生命機能科学研究センター 転写制御構造生物学研究チーム	クライオ電子顕微鏡をもちいたネガティブ転写伸長因子NELFの構造解析
仙石 徹	横浜市立大学医学部医学科生化学教室	酸化ストレス応答と発がんに中心的な役割を果たすNrf2の構造解析と阻害剤開発
谷口 浩二	慶應義塾大学医学部微生物学・ 免疫学教室	転移における炎症の役割の解明
内藤 尚道	大阪大学 微生物病研究所情報伝達分野	血管に常在する血管内皮幹細胞を用いた人工血管の作製
中島 友紀	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 分子情報伝達学	破骨細胞の新規制御分子の同定と機能解析
中嶋 悠一郎	東北大学学際科学フロンティア研究所	がん微小環境および進展を制御する全身性応答の分子基盤の解明
西山 正章	金沢大学医薬保健研究域医学系 組織細胞学	クロマチンリモデリング異常による自閉症の発症メカニズムの解明と治療への応用
藤坂 志帆	富山大学第一内科	CD206陽性M2マクロファージが肥満糖尿病状態での骨格筋損傷治癒機転に与える影響

氏名	所属機関	研究課題名
保 仙 直 毅	大阪大学大学院 医学系研究科癌幹細胞制御学	膵臓がんに対するCAR T細胞療法の開発
細 川 健太郎	九州大学大学院 医学研究院幹細胞再生修復医学分野	テロメア結合因子を用いた造血幹細胞操作技術の開発
向 井 康治朗	東京大学大学院薬学系研究科 衛生化学教室	STINGを介したI型インターフェロン応答の収束機構の解明
森 田 林 平	国際医療福祉大学医学部 免疫学	Gelsolinによるマクロファージ死抑制機序の解明と腫瘍免疫療法への応用
安 田 貴 彦	名古屋医療センター臨床研究センター	融合遺伝子陰性成人急性リンパ性白血病における遺伝子変異プロファイリングによる分子生物学的特性の解明
谷内江 望	東京大学先端科学技術研究センター	パーソナルインタラクティブ計測技術の開発
吉 澤 拓 也	立命館大学生命科学部生物工学科	神経変性疾患に関与する液-液相分離性タンパク質の動的構造変化の解析

[資料-2]

平成30年度PIセットアップ研究助成採択者

6名（300万円交付）

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関	職名	研究課題名
遠 藤 求	京都大学大学院生命科学研究科 分子代謝制御学	准教授	植物から明らかにする分化全能性の基盤原理
奥 山 輝 大	東京大学分子細胞生物学研究所 (現 東京大学定量生命科学研究所)	准教授	自閉症病態解明に向けた、社会性行動異常と社会性記憶障害の神経メカニズム解析
片 岡 圭 亮	国立がん研究センター研究所 分子腫瘍学分野	分野長	成人T細胞白血病リンパ腫における全ゲノム解析による新規遺伝子異常の探索
北 川 大 樹	東京大学大学院薬学系研究科 生理化学教室	教 授	分裂期紡錘体制御系の統合的解析と創薬研究への応用
馬 場 義 裕	九州大学 生体防御医学研究所 免疫ゲノム生物学分野	教 授	B細胞によるアレルギー制御機構の解明
諸 石 寿 朗	熊本大学大学院生命科学研究部 分子酵素化学分野	准教授	宿主のがん免疫を制御する機構の解明

平成29年度海外留学奨学研究助成金採択者

5名 (300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関／留学先／国名	研究課題名
小林 枝里	東北大学大学院医学系研究科 National Institutes of Health USA	転写因子間相互作用によるmRNA質的制御メカニズムの解析
中山 絵里	国立感染症研究所ウイルス第一部 QIMR Berghofer Medical Research Institute Australia	チクングニアウイルス感染による関節炎の治療薬開発
長島 駿	東京薬科大学生命科学部分子生化学研究室 Medical Research Council (MRC), Mitochondrial Biology Unit (MBU) UK	細胞死におけるミトコンドリアと小胞体の接着点MAMの制御機構の解明
林 玲匡	東京大学医学部附属病院病理部 Memorial Sloan Kettering Cancer Center USA	ゲノム, エピゲノムの網羅的解析による癌のクローン進展, 再発と組織形態像の変化
平澤 一法	北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科 視覚機能療法学 Moorfields Eye Hospital NHS Foundation Trust and UCL UK	新しい早期緑内障検出方法および眼圧値を考慮した新しい緑内障進行モデルの構築

平成30年度海外留学奨学研究助成金採択者

5名 (300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関／留学先／国名	研究課題名
浅島 弘充	筑波大学医学医療系内科 (膠原病・リウマチ・アレルギー) Yale School of Medicine USA	抗原特異的T細胞の網羅的解析による多発性硬化症の新規バイオマーカー探索
川村 俊輔*	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH Zurich) Switzerland	ミエロイド系細胞とリンパ球系細胞が分岐・分化する時系列とメカニズムの解明
中嶋 優	東京大学大学院薬学系研究科天然物化学教室 University of Oxford UK	プロリン残基ヒドロキシル化を担うヒト由来 α -ケトグルタル酸依存性酸化酵素の結晶構造解析
横瀬 淳	富山大学大学院医学薬学研究部 (医学) 生化学講座 テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター USA	多種多様な感情表現を司る神経回路と統合メカニズムの解明 -感情創出の起源を探る-
若橋 香奈子	神戸大学大学院医学研究科血液内科学分野 Centro Nacional de Investigaciones Cardiovasculares (CNIC) Carlos III Spain	骨髄造血ニッチ制御因子としての好中球-成熟好中球の意外な役割-

* 川村俊輔先生は、採択後、平成29年12月20日付辞退。

平成31年度海外留学奨学研究助成金採択者

5名 (300万円/年、2年交付)

(50音順、敬称略)

氏名	所属機関／留学先／国名	研究課題名
萩野 広和	徳島大学大学院医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野 Department of Neurological Surgery, University of California, San Francisco USA	転移性脳腫瘍における特異的ながん抗原の同定、および脳転移制御を目指した新規がん免疫療法の開発
鈴木 邦道	慶應義塾大学医学部生理学教室 Department of Translational Hematology and Oncology Research, Cleveland Clinic USA	抑制性シナプスの微細構造的分類と次世代シナプスコネクターによる制御
名西 悦郎	九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野 ボストン小児病院/ハーバード医科大学 USA	次世代アジュバントを用いた新規新生児・小児用ワクチンの開発
松宮 舞奈	京都大学大学院生命科学研究科 増殖制御システム学分野 European Molecular Biology Laboratory Spain	体節形成疾患のin vivo解析系の作製と新規原因遺伝子の同定
溝田 功	三重大学大学院工学研究科分子素材工学専攻 University of Münster Germany	α -イミノエステルの極性転換反応とイミニルラジカル種を活用したカルボニル化合物の α -アミノ化反応の開発およびそれを活用するワンポット創薬研究